

平成 30 年 9 月 15 日(土)16 日(日)に 第 4 回島根ブロック大会を開催しました

9 月 15 日(土)16 日(日)に広島文教女子大学人間福祉学会 島根ブロック大会を島根県松江市にて開催いたしました。

昨年は雲南市で行い、今年で島根ブロック大会も第 4 回目を迎えることができました。

人間福祉学会は、研究はもちろんのこと横や縦の繋がりを築くという目的で開催しています。今回は初の試みとして島根在住の 1 期生 5 名を中心に企画・運営をしていただき、OG や在學生、受講者、学会員の総勢 30 名の方々に参加していただくことができました。



(開会式)

第 1 部では本大学の非常勤講師であり廿日市市社会福祉協議会の会長もされておられる蛭江紀雄先生に「福祉現場で働き続けて今振り返って思うこと」と題してご講演いただきました。

講演では、「先生の生き方に影響を及ぼしたこと」、「福祉の魅力と大変さ」、「なぜ続けてくることができたか」などを話していただきました。

お話を聞いていると蛭江先生の人生には本当に多くの人と関わっていたことが分かります。これまで福祉職を続けてこられた要因の一つとして挙げられたのも「尊敬し合える仲間とチームが組めたこと」だと言われていました。

現在もはつかいち壮年チームに所属し、25 年近く地域の一員として参加をされているそうです。そこでたくさんの方の仲間に出会い、その仲間との活動や関わりが現在の仕事をする上でのエネルギーにもなっているとおっしゃっています。

一人で頑張っても行き着く先には限界があります。しかし、福祉の魅力としては、利害抜きで協働出来る仕事であり、やりがいの大きい仕事だと思います。しかし、人の人生や命に関わる仕事でもある為、やはりその分大変さやしんどさは必ずついてきます。

また、資格を持ったプロであるという社会的な責任を持つ自覚を持ち、利用者にとっての安心材料である資格を活かしながら、プロだからこそ一定のレベルを保証できるように勉強し続けることも求められてきます。ではそれをどのように乗り越えるかというと、人と人とのつながりの質を高め、乗り越えていくのだと蛭江先生はおっしゃっていました。福祉だけでは助けることが出来ないことも多職種と協働することで、支援をすることが出来るのだそうです。また、支援をしていく上で必要なことは、記憶ではなくて記録で残していくことだとも言われていました。

この世の中は生きていくには不安なことがたくさんあります。安心して生きていくためには、しっかりと誰かに受け止めてもらっていると実感がないと本当に安心して生きていくことが出来ないのだそうです。この“安心して生活をする”ということをベースに私たちはどのような職種に就いても取り組んでいくことが大切だと学ぶことが出来ました。

蛭江先生は現在も現場に携わりながら、大学では学生に現場での経験やこれまでの福祉の歴史など踏まえて貴重な講義をしてくださっていますが、さらに、この会では、何故、現在の年齢まで福祉に従事出来るのかということ等、普段は中々聞けない話を聞くことが出来ました。

蛭江先生は“地域を耕し、種をまき、視野を広げていくこと、つまり関心を置いておくことが何より大切なこと”だと言われており、最後に楽しくやっていると人は寄ってくるし、楽しくやっていると活動は続けられるというお言葉で会を締めくくられました。



第2部では情報交換会を、年代別、福祉分野別(高齢者・障害者・児童・地域・医療)の2部構成で行いました。

年代別の情報交換会では、「家庭と仕事の両立どのようにしているのか」「仕事の現状・課題・抱負」について話をしていました。それぞれの働き方や状況はあるけれど、仕事を続けているとそれなりに視野が広がり責任を持たされ、育児の折り合いをどうつけていくのかという話になりました。

蛭江先生からは、その時の身の置き場から得られることのもっとも大切だとアドバイスをいただきました。

また、働き始めたばかりの15期生が、うまく上司に想いが届かなかったり、経験が浅いが故に悔しい想いをしたといった話に対して、13期生が入社当時や2年目に苦しんだ時期の話、それを

どのようにして乗り越えていったのかという話を経験を踏まえて伝えるなど、年代に分かれているからこそ共感出来る部分やアドバイス出来ることがありました。

さらに、経験を豊富に積んだ先生方の上司目線でのアドバイスや経験談を聞くことができ、ピアサポートのような形で話をする事が出来ました。

また分野別では、それぞれの年代が集まっての話だった為、3. 4年目でぶつかる仕事の大変さのところでは、違う年代がアドバイスをしたり、また年数を重ねていると、初心の気持ちを取り戻したりと相互に影響をもらいながらそれぞれの話を進めることが出来ました。

同じ職種だからこそ、共感してもらえる嬉しさを感じることが出来たり、大変さややりがいの部分でも他者に理解してもらおうということが心の救いとなったのではないかと思います。



第3部では、第2部で年代別、職種別で交流をした為、多職種の先輩や後輩と文教で学んだというベースがある中で、話をする事ができ、仕事やプライベートも合わせて、人生の話をする事が出来ました。

第4部では、1日目に行った良い点や改善点、今後の展望などを皆で話すことで、より会を深めることが出来たのではないかと思います。ここでは、参加して下さった方々に感想を聞いていますので、ご紹介をしたいと思います。



【参加者の声】

- ◎4年目になり、社会人として新鮮さがなくなっていたので、原点に戻る良い機会となりました
- ◎初めて会う先輩や後輩、先生方に会えて楽しかった

- ◎今までになかった**縦の繋がり**を築くことができた
 - ◎蛭江先生の講演や先輩方と話をしたことで、自分が何をしたいのか、どうあるべきなのかということを考えることができた
 - ◎御堅い会だと思って参加してみたら、良い意味でとてもフランクな会で、先輩方や先生方と話しやすいと感じることができた
 - ◎一番は先生や友人に会えたことが何より参加して良かったことです
 - ◎職場では中々言えないことを先輩、先生だから話すことが出来た
 - ◎先輩方の活躍する姿を見て、**モチベーションを上げる**ことが出来た
 - ◎幅広い内容の話が聞けて良かった
 - ◎今後は様々なジャンルの外部の講師または専門職の方の話や考えを聞く機会を設けてほしい
 - ◎今後も横や縦の繋がりを意識した機会を設けてほしい
- など、たくさんの意見をいただくことが出来ました。

ご参加くださいました皆さま、本当にありがとうございました。

今回参加が難しかった皆様も必ず来てよかったと思えるような会にいたしますので、ぜひ次回ご参加ください。